

道路



III

C O N T E N T S

III-1	步道等	142
III-2	横断步道	148
III-3	横断步道橋等	150



歩道等

基本的な考え方▶

歩道等は、まちにおける移動の重要な動線です。そのため、障害者、高齢者等も円滑かつ安全に利用できるよう、適切に幅員を確保することや車道とのすりつけを行うこと、また歩道等と車道の明確な分離を行うことなどの配慮をすることが必要です。さらに、状況に応じて、視覚障害者の誘導等に配慮したブロックを敷設することも必要です。

整備項目	整備基準	より望ましい基準
歩道又は 自転車 歩行車道	<ul style="list-style-type: none"> ●平たんで滑りにくく水はけのよい舗装の仕上げ ●排水溝へのつえ等の使用者の通行に支障のない構造の溝ぶたの設置 ●有効幅員 歩道：2 m以上 自転車歩行車道：3 m以上 ●セミフラット形式を基本とする ●車道等又は自転車道に接続して縁石線を設置 ●歩道等に設ける縁石の車道等に対する高さは15cm以上（車両乗入れ部・横断歩道箇所は除く） ●車道等に対する高さは5 cmを標準（横断歩道箇所を除く） ●横断勾配は2 %を標準（透水性舗装等排水が図れる場合は1 %以下） ●縦断勾配は5 %以下（周囲の状況により8 %以下でも可） ●歩道等の巻込部及び横断歩道箇所には1.5m程度の延長の平坦な区画を設置 ●歩道等の巻込部及び横断歩道箇所の歩道等と車道等の段差は2 cmを標準 ●必要に応じた視覚障害者誘導用ブロック（周囲の路面と容易に識別できる色）の敷設 ●車両乗入れ部の有効幅員のうち平坦部分は1 m以上 	<ul style="list-style-type: none"> ●2 m以上

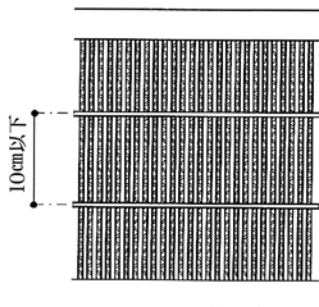
解説

●整備基準及びより望ましい基準における幅員200cmとは、車いす同士のすれ違いに必要な幅員180cmに施設帯の幅20cmを加えた幅である。

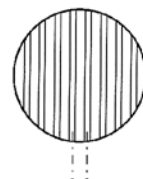
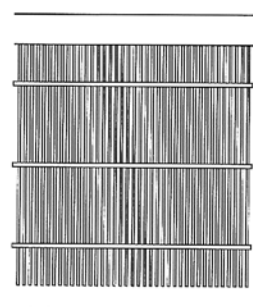
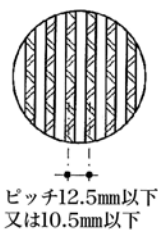
●条例による整備基準、●より望ましい基準、細字は標準的な寸法や配慮の一例で参考となる内容

■ 排水溝のふたの仕様

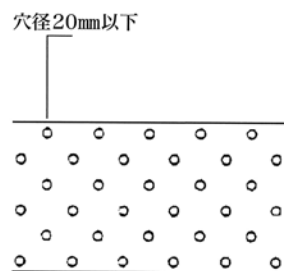
細目タイプ溝ふた



格子型溝ふた

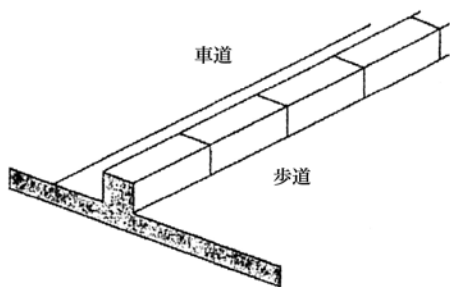


丸穴あき型溝ふた

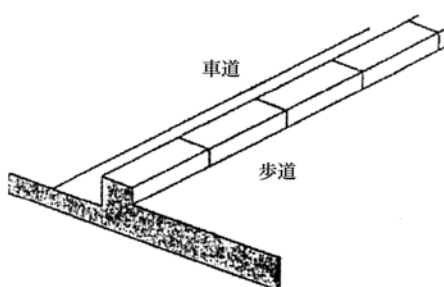


■ 歩道の形式

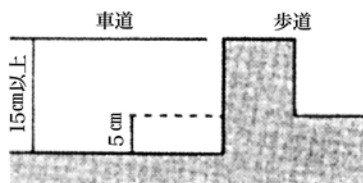
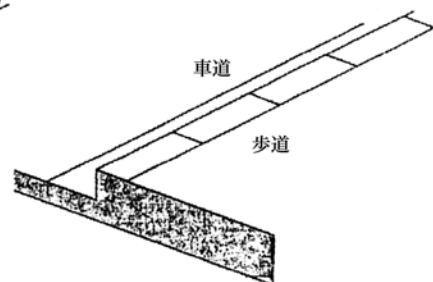
フラット形式



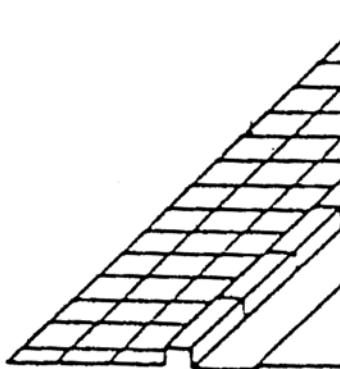
セミフラット形式



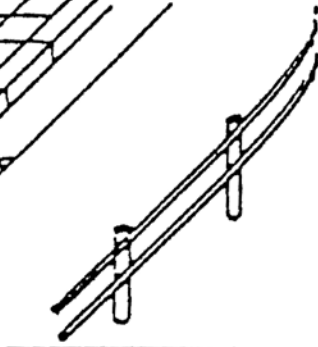
マウントアップ形式
(バス停留所部分等)



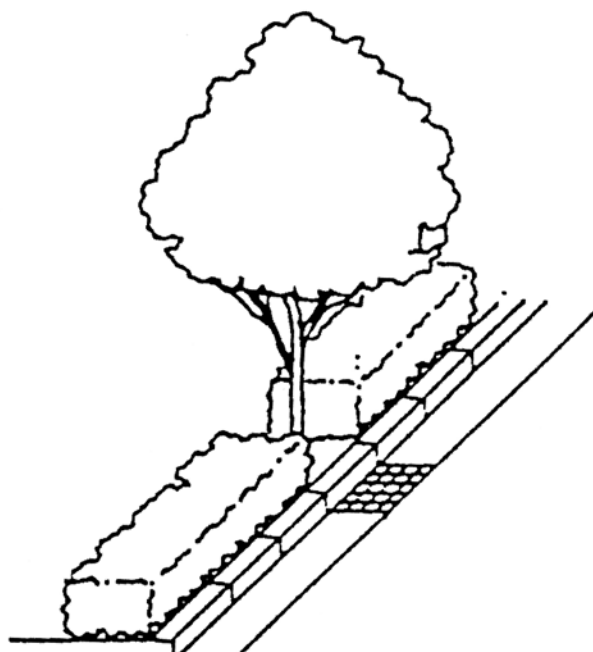
■ 歩道と車道の分離方法



緑石

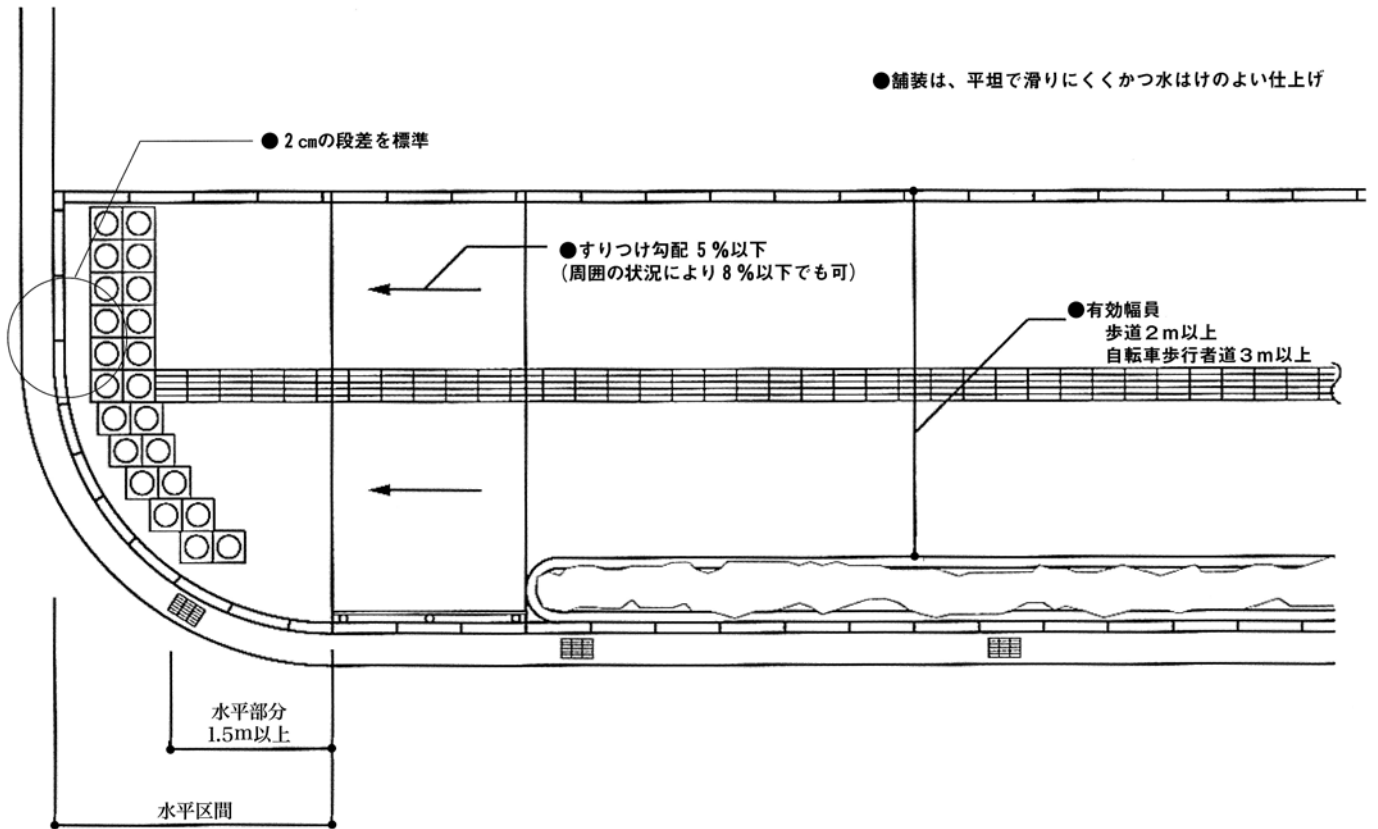


ガードレール

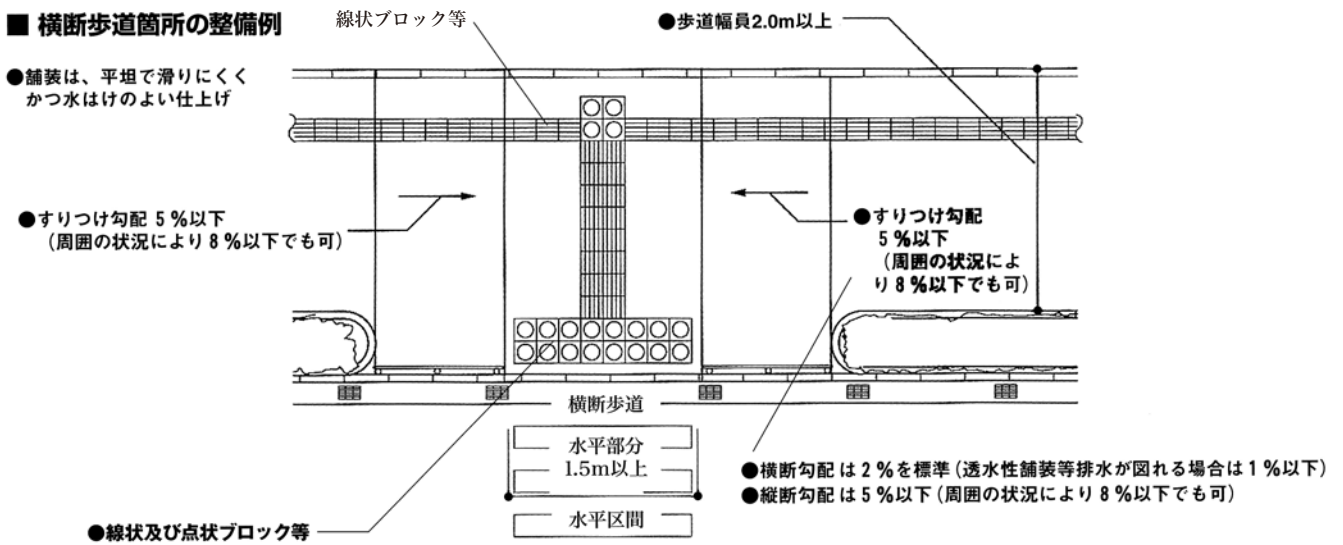


植樹帯

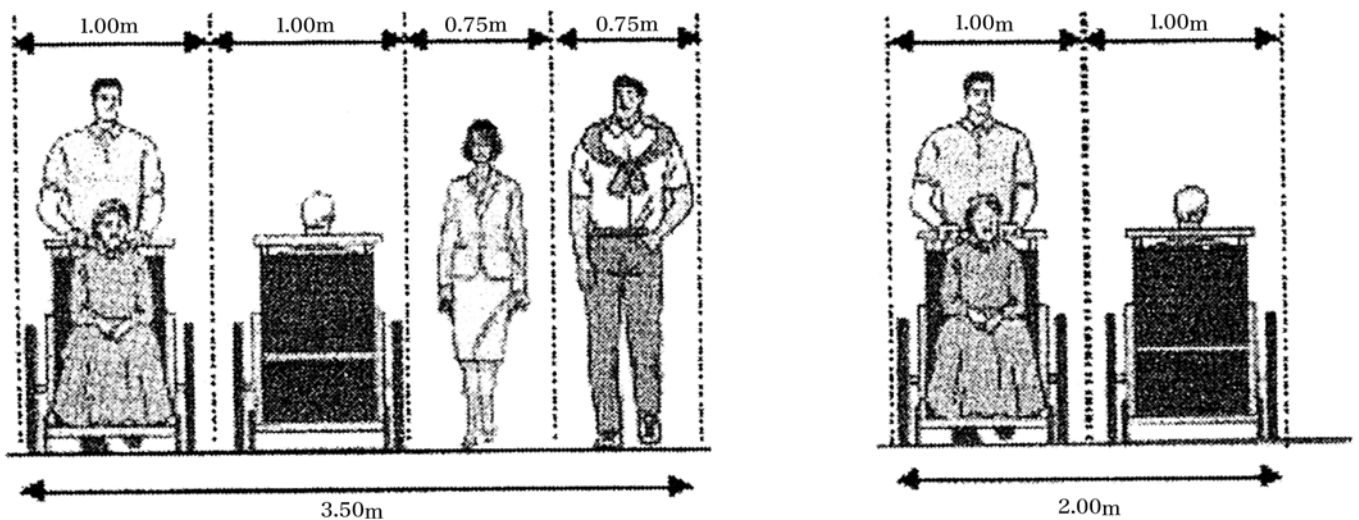
■ 歩道の巻込部の整備例



■ 横断歩道箇所の整備例



■ 歩道の幅の考え方



「歩道における縁石段差構造に関する基準」について

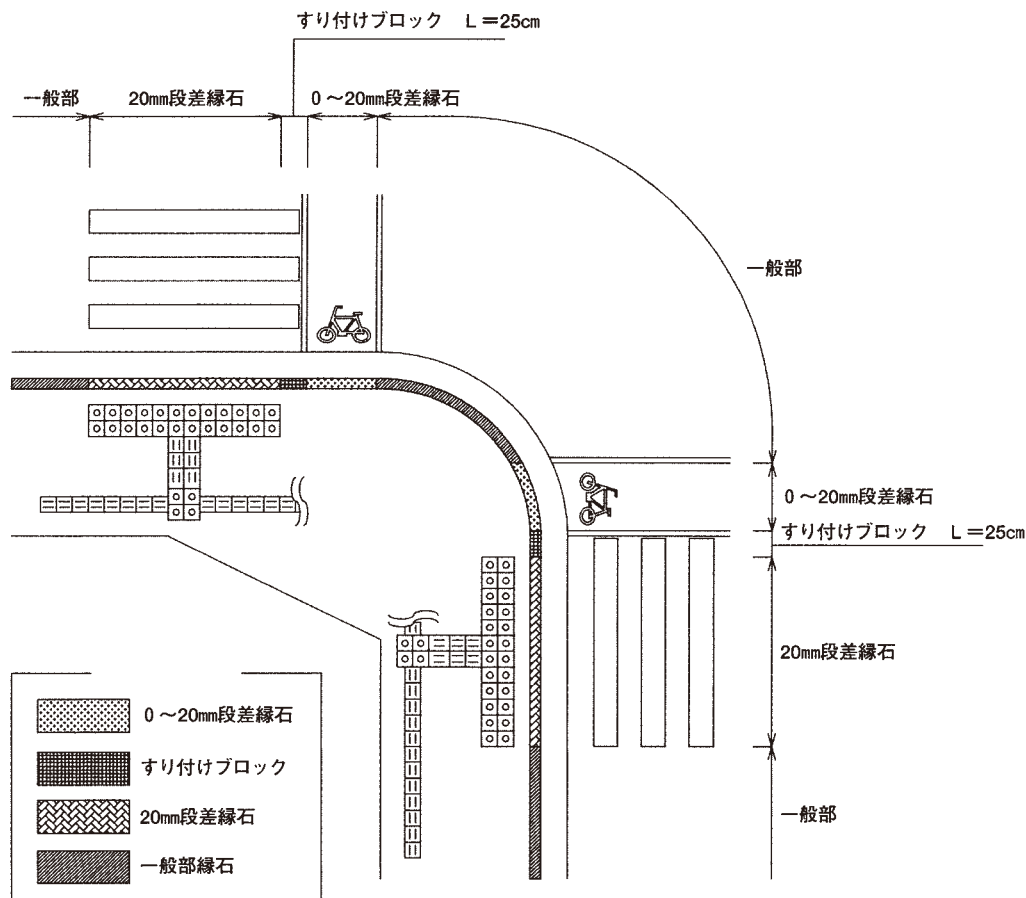
国土交通省

平成17年6月1日付け事務連絡において横断歩道等の段差について通知したところであるが、引き続き検討事項としていた「普通自転車交差点進入禁止(114の3)」および「自転車横断帯(201の3)」の路面表示箇所等の自転車が通行する箇所における縁石構造について、下記の通り通知する。

記

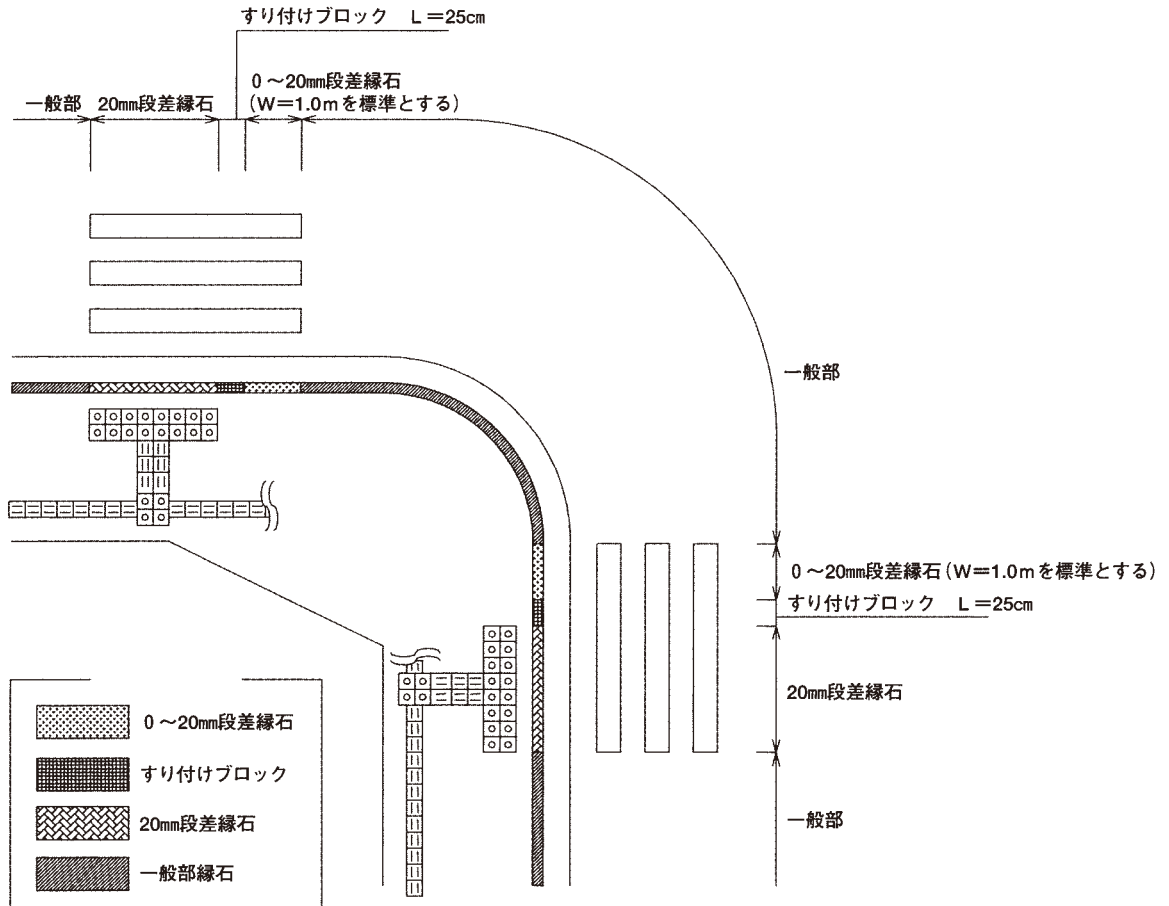
1. 適用時期 ・平成17年8月1日以降、施工するものについて適用するものとする。
2. 適用範囲 ・管内全ての直轄国道における改築・交通安全・修繕事業及び道路法第24条並びに第32条に基づく工事について適用するものとする。
・プレキャスト排水柵を設置する場合においても本事務連絡に定める縁石構造を適用する。
3. その他 ・段差縁石等の設置計画にあたっては別添図面に基づくものとする。
・「普通自転車交差点進入禁止(114の3)」表示箇所の縁石構造は「自転車横断帯(201の3)」と同一とする」

■Case 1 横断歩道・自転車横断帯が設置される場合



注1) 横断歩道の範囲は、20mm段差縁石とし、自転車横断帯は0~20mm段差縁石とすること。
 注2) 視覚障害者誘導用ブロックは、20mm段差縁石構造とする横断歩道の範囲のみ設置し、0~20mm段差縁石構造とした自転車横断帯及びすり付けブロックの範囲には設置してはならない。
 注3) 視覚障害者誘導用ブロックの設置計画策定にあたっては、国土交通省道路局企画課監修/財国土技術研究センター編集・発行の「道路の移動円滑化整備ガイドライン」に基づくものとする。

■Case 2 横断歩道が設置される場合

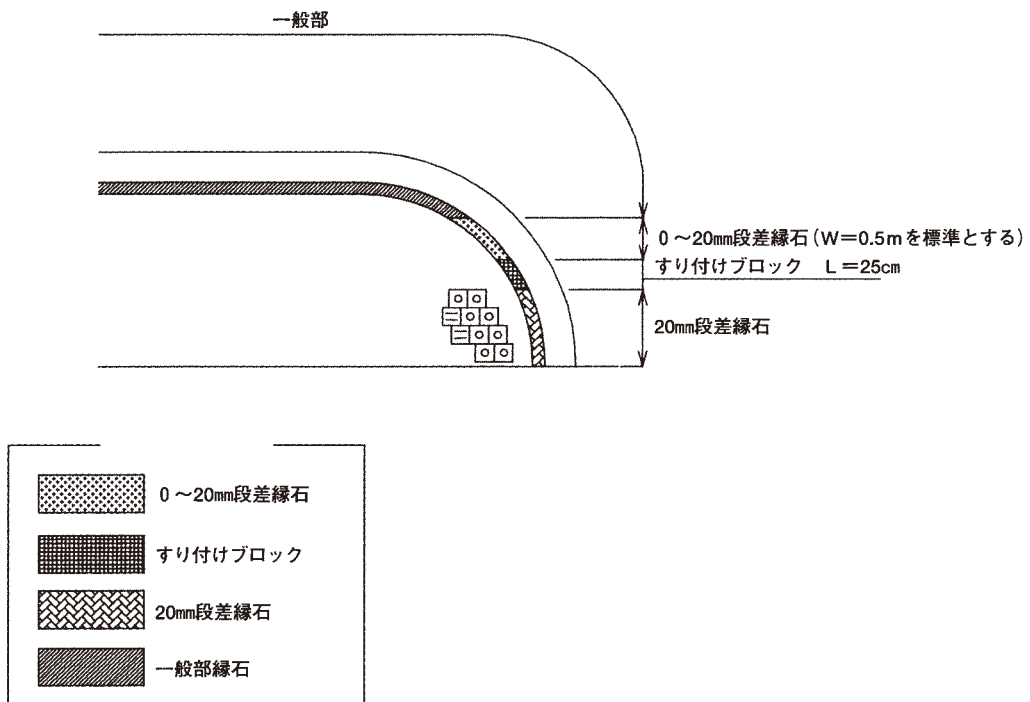


注1) 自転車の走行に配慮し横断歩道内に0~20mm段差縁石とするものとする。

注2) 視覚障害者誘導用ブロックは、20mm段差縁石構造とする横断歩道の範囲のみ設置し、0~20mm段差縁石構造とした自転車横断帯及びすり付けブロックの範囲には設置してはならない。

注3) 国土交通省道路局企画課監修/財国土技術研究センター編集・発行の「道路の移動円滑化整備ガイドライン」に基づくものとする。

■Case 3 横断歩道が設置されない場合で有効幅員が2.0mを超える箇所



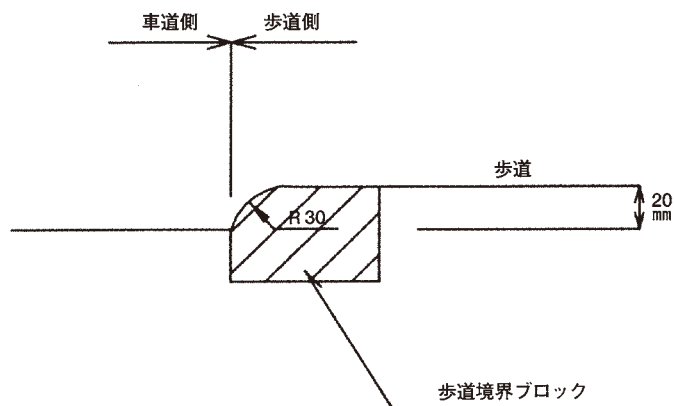
注1) 視覚障害者誘導用ブロックは、20mm段差縁石構造とする横断歩道の範囲のみ設置し、0~20mm段差縁石構造とした自転車横断帯及びすり付けブロックの範囲には設置してはならない。

注2) 歩道有効範囲が2.0m以下の場合には0~20mm段差縁石は使用しないものとする。

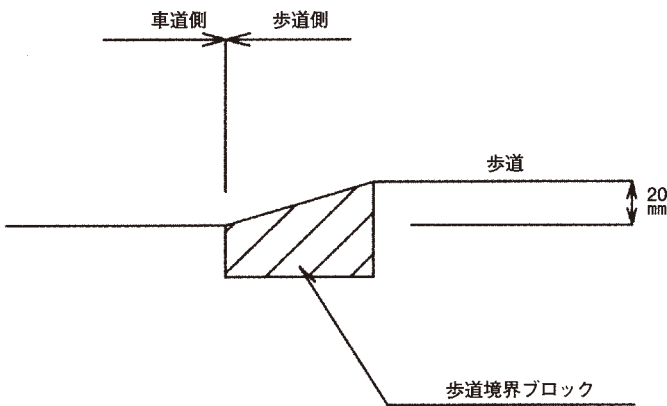
注3) 視覚障害者誘導用ブロックの設置計画策定にあたっては、国土交通省道路局企画課監修/財国土技術研究センター編集・発行の「道路の移動円滑化整備ガイドライン」に基づくものとする。

■縁石標準断面図

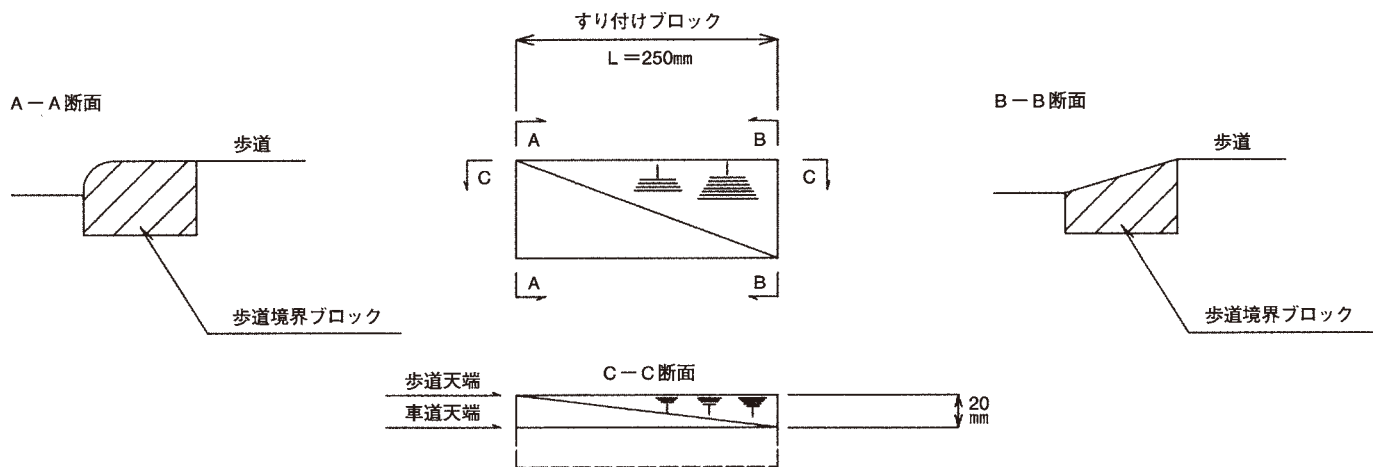
20mm段差縁石



0~20mm段差縁石



すり付けブロック



〈参考資料〉道路標識、区画線及び道路標示に関する命令 別表第5(第9条関係)

	<p>記 号</p> <p>自転車横断帯(201の3)</p> <p>色彩</p>		<p>記 号</p> <p>普通自転車の交差点進入禁止(114の3)</p> <p>色彩</p>
<p>白</p>	<p>色彩</p>	<p>黄(実線) 白(矢印及び自転車の記号)</p>	<p>色彩</p>



Ⅲ-2

横断歩道

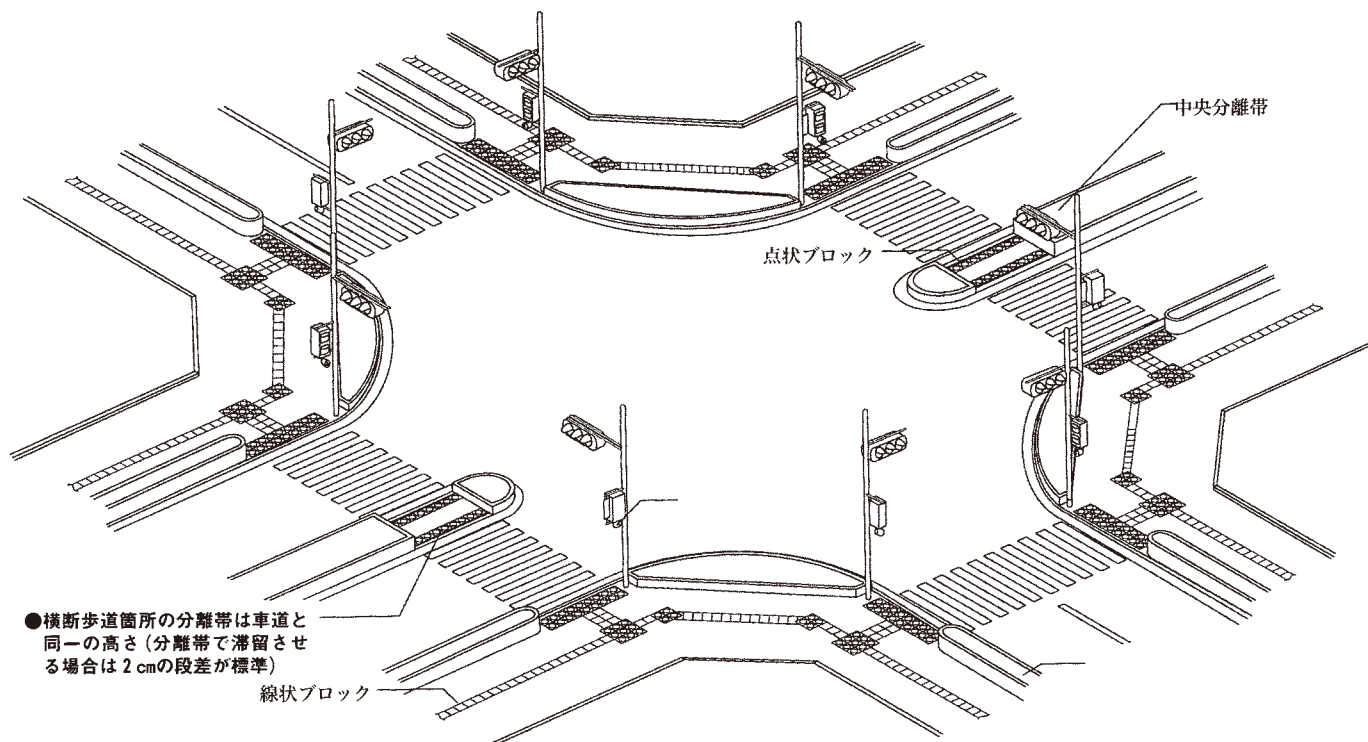
基本的な
考え方▶

横断歩道と中央分離帯が交差する場合には、車いす使用者が円滑に通行できるものとする必要があります。

整備項目	整備基準	より望ましい基準
横断歩道	<ul style="list-style-type: none"> ●横断歩道箇所の分離帯は車道と同一の高さ(分離帯で滞留させる場合は2cmの段差が標準) 	
解 説	<ul style="list-style-type: none"> ●分離帯で歩行者等を滞留させる場合で車道との区画のため段差を設ける場合は2cmを標準とする。 	

●条例による整備基準、●より望ましい基準、細字は標準的な寸法や配慮の一例で参考となる内容

■ 横断歩道の整備例





Ⅲ-3

横断歩道橋等

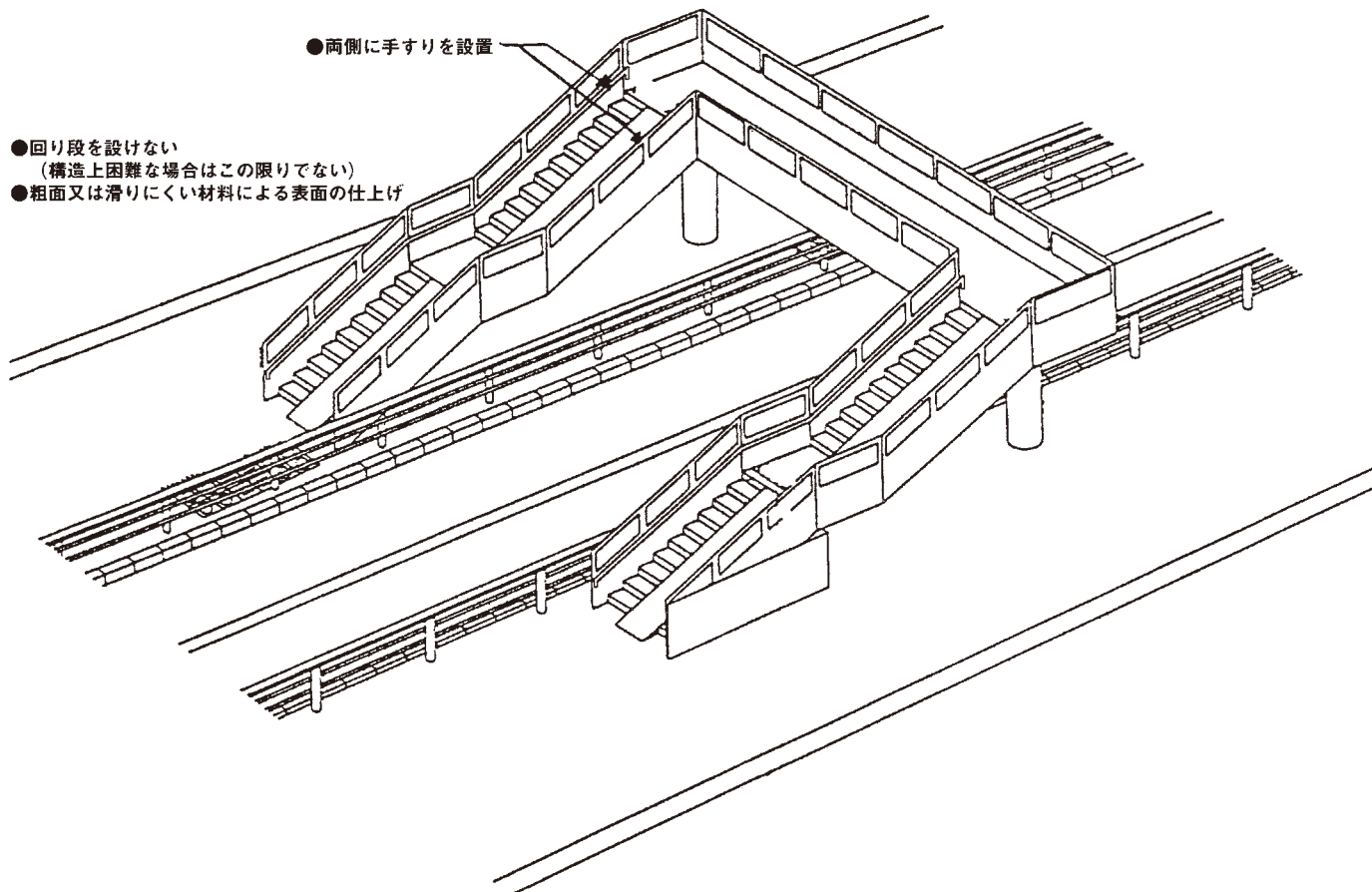
基本的な
考え方▶

横断歩道橋等には、昇降を行う際の負担を軽減するような配慮を行うとともに、安全に対する配慮を行うことが必要です。

整備項目	整備基準	より望ましい基準
横断歩道橋等	<ul style="list-style-type: none"> ● 回り段を設けない構造（構造上困難な場合はこの限りでない） ● 階段、傾斜路及びその踊場における両側への手すりの設置 ● 粗面又は滑りにくい材料による表面の仕上げ 	

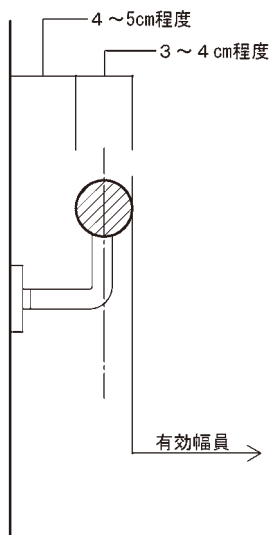
●条例による整備基準、●より望ましい基準、細字は標準的な寸法や配慮の一例で参考となる内容

■ 横断歩道橋の整備例

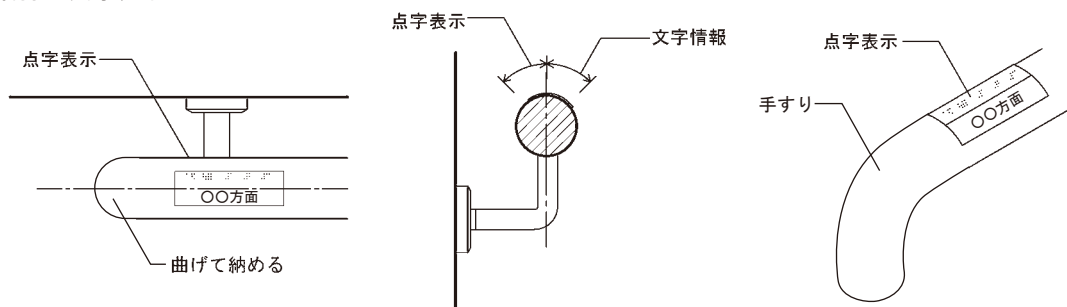


■ 手すり*

手すりと有効幅員



手すりの端部と点字表示



(※出典：「高齢者、障害者等の円滑な移動等に配慮した建築設計標準」国土交通省（一部加工して使用）)